

# 2014年度 決算説明会

2015年4月27日

株式会社アドバンテスト

## ご注意

- ◆当社は米国会計基準を採用しております。
- ◆将来の見通しに関する記述について  
本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

**ADVANTEST.**

# 2014年度 決算報告

取締役 兼 常務執行役員 中村 弘志

# 業績概要

(億円)

	2013年度 通期	2014年度								
		1Q	2Q	3Q	4Q			通期		
					1月時点 予想	実績	前期比	1月時点 予想	実績	前年度比
受注高	1,274	492	382	387	399	502	+30.0%	1,660	1,763	+38.4%
売上高	1,119	368	421	410	421	434	+6.0%	1,620	1,633	+46.0%
売上総利益	493	203	229	234	-	238	+2.4%	-	904	+83.3%
営業利益	-364	24	40	34	42	48	+40.6%	140	146	-
税引前純利益	-355	32	48	53	42	56	+5.0%	175	189	-
当期純利益	-355	13	33	46	33	37	-20.4%	125	129	-
受注残	320	444	404	381	360	450	+18.0%	360	450	+40.7%

**ADVANTEST.**

2015/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

4

## ○ 2014年度 通期業績概要

- ・ 受注高 1,763億円 前年度比 38.4%増
- ・ 売上高 1,633億円 前年度比 46.0%増
- ・ 営業利益 146億円
- ・ 税引前当期純利益 189億円
- ・ 当期純利益 129億円
- ・ 受注高、売上高を伸ばし、コスト増加抑制に努め、業績を回復

## ○ 2014年度第4四半期の業績概要

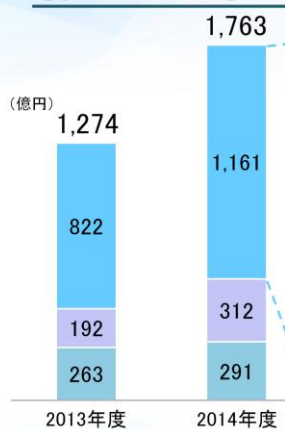
- ・ 受注高 502億円 前期比 30.0%増
- ・ 売上高 434億円 前期比 6.0%増
- ・ 営業利益 48億円 前期比 40.6%増
- ・ 税引前当期純利益 56億円 前期比 5.0%増
- ・ 当期純利益 37億円 前期比 20.4%減

## ○ 受注残 450億円

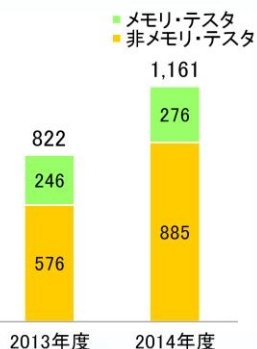
- ・ 前年同期比 130億円上積みして新年度入り

# 2014年度 受注高実績

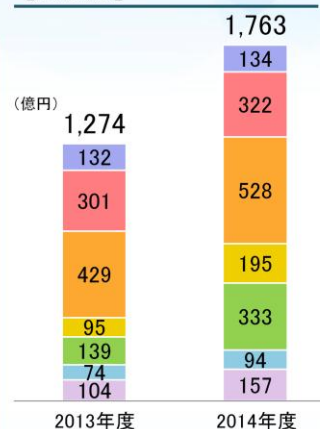
【事業セグメント別】



【半導体・部品テストシステム内訳】



【地域別】



■ 半導体・部品テストシステム  
■ メカトロニクス関連  
■ サービス他

■ 日本 ■ 韓国 ■ 台湾  
■ 中国 ■ 米州 ■ 欧州  
■ その他

※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

**ADVANTEST.**

2015/4/27

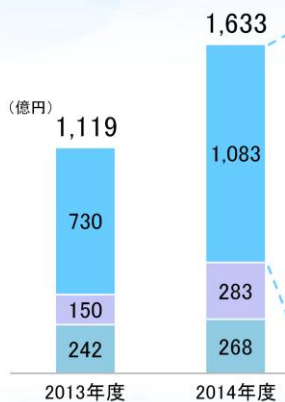
All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

5

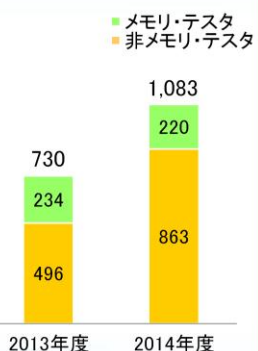
- 事業セグメント別、地域別の通期受注実績
- 半導体・部品テストシステム事業
  - ・ 前年度比41%増 1,161億円
  - ・ スマートフォンの性能進化や台数成長に支えられ、顧客の投資が活発化
  - ・ 中国LTEスマートフォン関連の半導体テスト需要の伸びを捉え、非メモリ・テストの受注を伸ばす
  - ・ パソコン/サーバー関連需要の回復、世界的なハイエンド・スマートフォンの販売好調も、堅調な受注に寄与
- メカトロニクス関連事業
  - ・ 前年度比63%増 312億円
  - ・ 微細化に伴い高度化する微細加工・検査ニーズを背景にナノテクノロジー事業が成長
  - ・ デバイス・インタフェース事業も増収策が進捗
- サービス他事業
  - ・ 前年度比11%増 291億円
  - ・ 保守契約の拡大が進み、新規事業の貢献が増えた
- 地域別
  - ・ スマートフォンに関連が深い半導体企業が多くある台湾、中国、米州でより大きな伸び

# 2014年度 売上高実績

【事業セグメント別】



【半導体・部品テストシステム内訳】



【地域別】



■ 半導体・部品テストシステム  
■ メカトロニクス関連  
■ サービス他

■ 日本 ■ 韓国 ■ 台湾  
■ 中国 ■ 米州 ■ 欧州  
■ その他

※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

**ADVANTEST.**

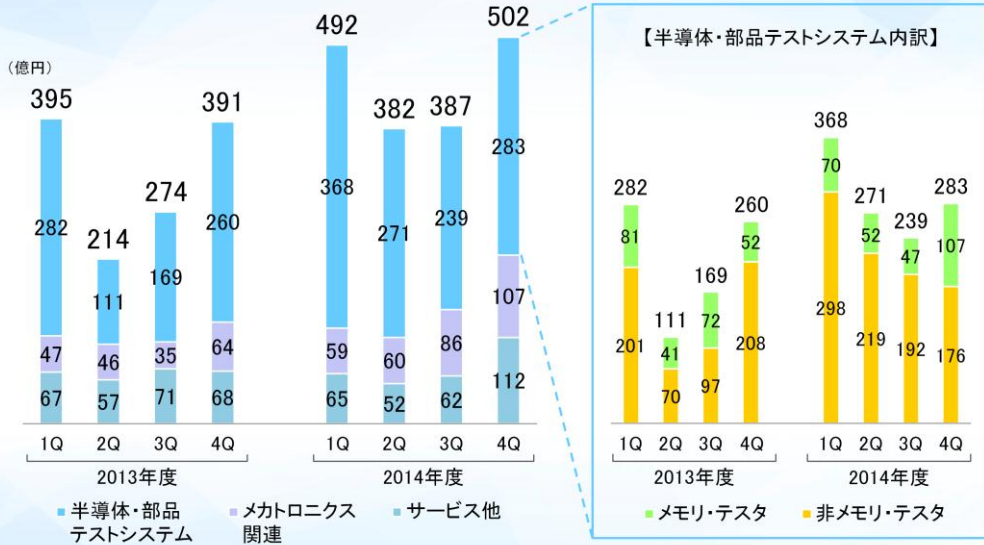
2015/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

6

- 事業セグメント別、地域別の通期売上実績
- 事業セグメント別
  - ・ 増減要因は受注と同一
  - ・ 半導体・部品テストシステム事業 前年度比48%増 1,083億円
  - ・ メカトロニクス関連事業 前年度比89%増 283億円
  - ・ サービス他事業 前年度比11%増 268億円
- 地域別
  - ・ ほぼ全地域で増加

# 受注高 事業セグメント別



※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

**ADVANTEST.**

2015/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

7

## ○ 2014年度第4四半期の事業セグメント別受注高

### ○ 半導体・部品テストシステム事業

- 前期比18%増 283億円  
うち非メモリ・テスト 176億円  
メモリ・テスト 107億円

- DRAM、NAND投資の活発化を受け、メモリ・テスト需要が大きく回復
- 非メモリ・テストはスマートフォン用半導体向けが好調、パソコン向けは減速

### ○ メカトロニクス関連事業

- 前期比26%増 107億円

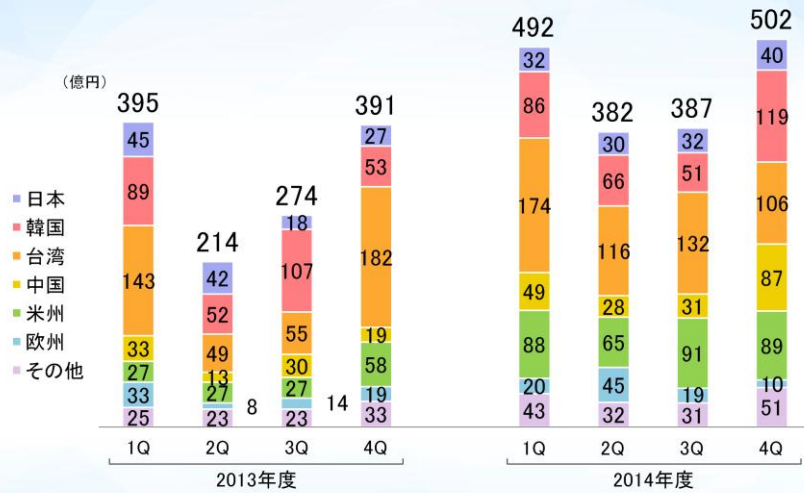
- ナノテクノロジー事業はやや一服も、ハンドラとデバイス・インタフェースが伸びた

### ○ サービスその他事業

- 前期比81%増 112億円

- 保守契約の季節性の伸びと、契約ベースの拡大を反映

## 受注高 地域(出荷先)別



**ADVANTEST.**

2015/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

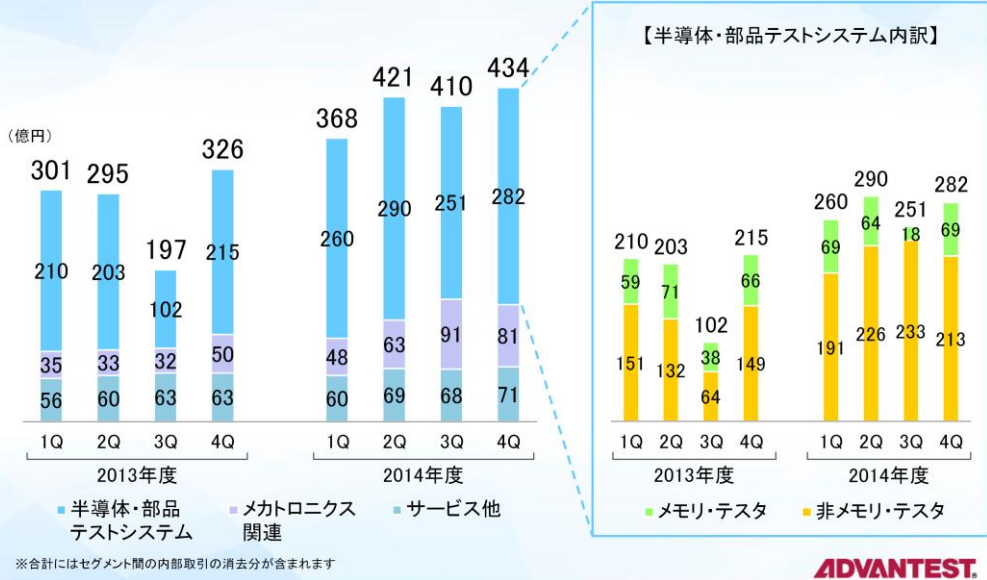
8

### ○ 2014年度第4四半期の地域別受注高

- 韓国、中国  
メモリ・テストが増加
- 台湾  
第3四半期に伸びたメモリ・テストの反動減



# 売上高 事業セグメント別



**ADVANTEST.**

2015/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

9

## ○ 2014年度第4四半期の事業セグメント別売上高

### ○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・ 前期比13%増 282億円  
 うち非メモリ・テスト 213億円  
 メモリ・テスト 69億円

- ・ DRAM向けメモリ・テストが伸びた
- ・ 受注同様、非メモリ・テストはスマートフォン用半導体向けで堅調、パソコン向けで減速

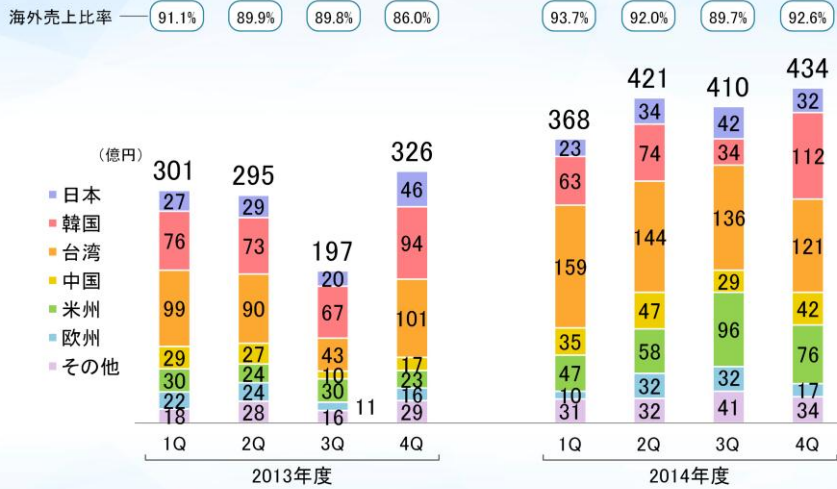
### ○ メカトロニクス関連事業

- ・ 前期比11%減 81億円
- ・ ナノテクノロジー事業がやや一服

### ○ サービスその他事業

- ・ 前期比4%増 71億円

# 売上高 地域(出荷先)別



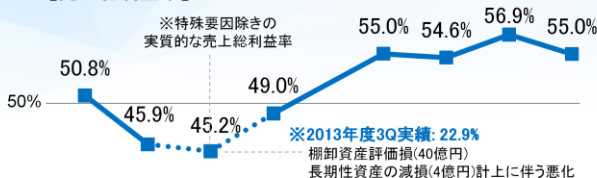
**ADVANTEST.**

## ○ 2014年度第4四半期の地域別売上高

- 韓国  
メモリ・テストが増加
- 米州、欧州  
ロジックIC向けが減少
- 年間海外売上比率 92.0%  
前年度は89.1%

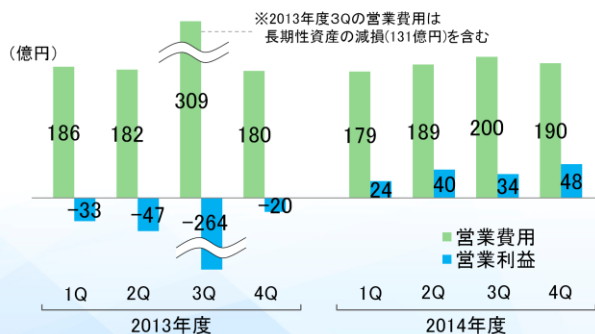
# 売上総利益率/営業費用/営業利益

## 【売上総利益率】



	2013年度	2014年度
売上総利益	493	904
下段:売上総利益率	44.1%	55.4%

## 【営業費用、営業利益】



	2013年度	2014年度
営業費用	857	758
営業利益	-364	146
下段:営業利益率	-32.5%	9.0%

**ADVANTEST.**

2015/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

11

### ○ 2014年度通期の営業損益

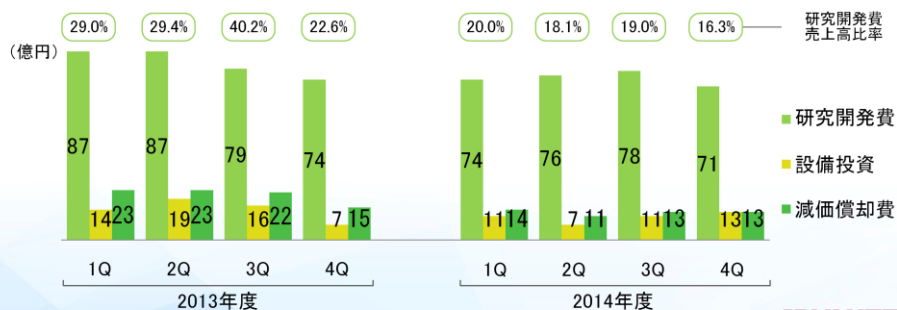
- 売上総利益率 年間では前年度の44.1%から11.3ポイント改善 55.4%
- 営業費用 同じく年間では前年度比99億円減少 758億円
- 営業利益 146億円
- なお13年度は、棚卸資産の評価損40億円、長期性資産の減損135億円を第3四半期に計上

### ○ 2014年度第4四半期の営業損益

- 売上総利益率 55.0%  
第3四半期から製品ミックスがやや悪化
- 営業費用 190億円  
研究開発費が減少
- 営業利益 48億円

## 研究開発費/設備投資/減価償却費

	2013年度	2014年度
研究開発費 下段売上高比率	327 29.2%	299 18.3%
設備投資	56	42
減価償却費	83	51



**ADVANTEST.**

2015/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

12

### ○ 2014年度通期の研究開発費等

- 研究開発費 299億円
- 設備投資 42億円
- 減価償却費 51億円
- 通期にわたり、不要不急の投資を抑制

### ○ 2014年度第4四半期の研究開発費等

- 研究開発費 71億円
- 設備投資 13億円
- 減価償却費 13億円

# バランス・シート

(自己資本)	1,163	1,428	1,409
(自己資本比率)	50.6%	53.9%	51.6%



ADVANTEST.

2015/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

13

## ○ 2015年3月末時点のバランス・シート

### ○ 資産の部

- ・ 現金預金  
前年度末比 286億円増 976億円
- ・ 棚卸資産  
前年度末比 70億円増 372億円
- ・ のれん  
前年度末比 77億円増 546億円
- ・ 総資産  
前年度末比 432億円増 2,730億円
- ・ 外貨建て資産が円安で増加

### ○ 負債・資本の部

- ・ 自己資本 1,409億円
- ・ 自己資本比率 前年度末比 1.0ポイント増 51.6%

# 2015年度 事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長 黒江 真一郎

# 2014年度実績の振り返り

## ✓ 4期ぶりの最終黒字

- 中国LTEスマートフォン関連需要の伸びが通期にわたり業績を牽引
- 増収、円安、製品ミックス良化により売上総利益率が大きく改善
- 円安に伴う営業費用増加にコスト引き締めで対応

## ✓ 各事業で収益拡大施策が進捗

半導体・部品テストシステム:

- » ミッド/ローエンド・スマートフォンと関連深いファブレス企業とのビジネス強化
- » MCU、アナログ、車載、NANDなど弱点分野でポジション向上

メカトロニクス関連:

- » ナノテクノロジー事業が大きく成長
- » デバイス・インタフェース事業、ハンドラ事業のテストセル販売強化策進展

サービス他:

- » サービス収入安定化のベースを着々と拡大
- » 新たに事業化したSSDテストが好発進

**ADVANTEST.**

## ○ 2014年度の実績と成果を振り返る

- 4期ぶりの最終黒字化
- 売上増の主要因は中国LTEスマートフォン関連需要の伸び。ほか、ハイエンド・スマートフォンの販売好調など、非メモリ・テスト市場に好要素が多かった
- 増収に加え、円安が進み、製品ミックスも良く、売上総利益率が大きく改善
- テスタ事業では、成長著しいミッド/ローエンド・スマートフォンと関連が深いファブレス企業各社とのビジネスを強化できた。また顧客ベース強化を通じ、MCU、アナログ、車載、NANDなど、弱点分野でポジション向上
- メカトロニクス関連事業では、当社の電子ビーム(EB)技術が評価を得て、ナノテクノロジー事業が大きく成長。デバイス・インタフェース事業とハンドラ事業では、テストセル販売強化策が進展
- サービスは保守契約獲得が進み、安定したサービス収入のベースを広げた。14年度に新たに事業化したSSDテストも好発進



## 2015年テスト市場の見通し

### ✓ 2015年市場規模予想: 約20億米ドル

- 中国LTEスマートフォン関連需要が引き続き市場を支える
- モバイル機器/データセンター用メモリの高速化・容量拡大トレンドを受けメモリ・テスト市場拡大

### ✓ 非メモリ・テスト市場: 約16億米ドル

- ハイエンド・ロジックIC向けが減少
- 2016年からはさらなる微細化進行で市場再拡大を想定

### ✓ メモリ・テスト市場: 約4億米ドル

- DRAM/NANDとも、生産能力増強投資とデバイス高速化対応投資が進展



テスト市場は前年比10%縮小見通しだが、シェア伸長により事業売上は前期並みを計画

**ADVANTEST.**

2015/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

16

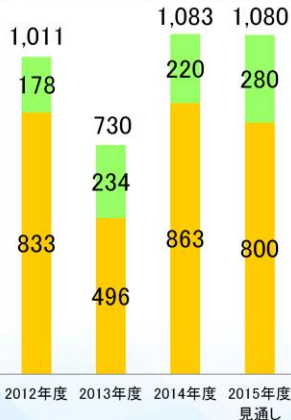
### ○ 事業の主軸を置くテスト市場の展望

- 暦年15年のテスト市場規模は約20億ドルと、前年比約10%減を予想
- 中国LTEスマートフォン市場の成長が非メモリ・テスト市場を引き続き下支えする一方、モバイル機器やデータセンターで使われるDRAMやNANDの高速化や容量拡大がメモリ・テストの投資を促す
- 非メモリ・テストの15年市場見込みは約16億ドル、前年比約15%減を想定。半導体微細化に合わせ、14年に特に伸びたハイエンド・ロジックIC関連のテスト投資が、15年は調整される見通し
- メモリ・テストの15年市場見込みは約4億ドル、前年比約15%増を想定。DRAM/NANDとも、生産能力増強投資とデバイス高速化対応投資が進む



# 15年度 テストシステム事業見通し

半導体・部品テストシステム  
売上高推移(億円)



## 非メモリ・テスト

- 14年度はこれまでの顧客ベース拡大策が結実、幅広い顧客から需要を集めた
- MCU、アナログ、PMIC、イメージセンサなど成長分野のポジション強化継続
- ディスプレイドライバ市場の独占維持
- 15年度のハイエンド・ロジックIC向けの需要減少影響を顧客ベース拡大効果で補う

## メモリ・テスト

- 14年度は次世代DRAM、高速NAND向けのプラットフォームを広め、シェア基盤を固めた
- その結果、15年度はDRAM、NANDとも堅調な需要獲得を期待

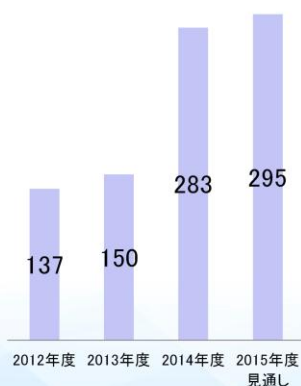
**ADVANTEST.**

## ○ 15年の市場動向を踏まえたテスト事業の見通し

- 14年度の当社の非メモリ・テスト事業は、これまでの顧客ベース拡大策が結実した1年
- より幅広い顧客から需要を集めたことで、「V93000」は売上記録を更新
- MCU、アナログ、PMIC、イメージセンサなど、成長分野のポジション強化継続
- ディスプレイドライバ向け市場の独占を維持
- 15年度はハイエンド・ロジックIC向けの需要が減少するが、顧客ベース拡大により補っていく
- メモリ・テストについては、14年度は次世代DRAM、高速NAND向けのプラットフォームを広め、シェア基盤を固めた1年
- その延長で、15年度はDRAM、NANDとも、堅調な新規テスト需要の獲得が期待できる

# 15年度 メカトロニクス関連事業見通し

メカトロニクス関連  
売上高推移 (億円)



## ナノテクノロジー

- ・ 微細加工/微細欠陥検査ニーズの高まりで14年度は全EB製品が収益貢献
- ・ 15年度もCD-SEM、欠陥レビューSEM(DR-SEM)、EB露光装置それぞれ需要持続を見込む

## デバイス・インタフェース

- ・ 14年度に成果を挙げた当社テスト用DI需要の取り込み強化策を継続
- ・ 15年度はメモリ・テストと連動した需要増も期待
- ・ DRAM/NAND用新プローブ・カードを投入予定

## テスト・ハンドラ

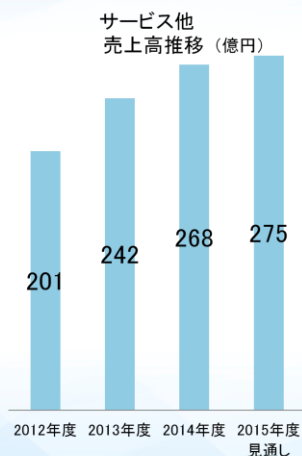
- ・ 高精度な温度制御能力と位置決め能力が武器のSoCハンドラ新製品と、メモリ・ハンドラ需要が伸長

**ADVANTEST.**

## ○ メカトロニクス関連事業について

- ・ 微細加工/微細欠陥検査ニーズの高まりで、14年度は全EB製品が収益貢献
- ・ 15年度も、CD-SEM、欠陥レビューSEM(DR-SEM)、EB露光装置の需要持続を見込む
- ・ 15年度のDI事業は、メモリ・テスト市場の伸びと連動した需要増も期待
- ・ 高精度な温度制御能力/位置決め能力で競争力を増したSoCハンドラの伸び、メモリ・テスト市場の伸びと連動したメモリ・ハンドラ需要の伸びで、ハンドラ事業は増収見込み
- ・ 高精度な位置決め能力を持つメモリ・ハンドラも投入予定、テストセル販売を強化

# 15年度 サービス他部門の見通し



## フィールドサービス

- 14年度も年間保守契約の拡大が進捗し、セグメント増収を牽引
- 15年度は顧客の生産性向上に寄与するソリューションを拡充、ポストセールス収入を伸ばす

## システム・レベル・テスト

- 14年度に発売開始したSSDテストが好評
- 15年度もエンタープライズSSD中心に顧客ベースを拡大

## テラヘルツシステム

- テラヘルツ波による新たな非破壊検査市場創造に向け、産業用途の実績拡大を図る

**ADVANTEST.**

## ○ サービス他事業について

- フィールドサービス事業は、14年度も年間保守契約の拡大が進み、売上が伸びた。15年度は、顧客の生産性向上に寄与するソリューションの拡充で、ポストセールス収入をさらに伸ばす
- さまざまな可能性を見据え幅広く展開している新規事業は、今期もSSDテストとテラヘルツシステムの増収を想定
- SSDの市場拡大とともに15年度のSSDテストは、より厳格な試験が必要でテスト需要の高いエンタープライズSSD向けを中心に顧客ベースを拡げる
- テラヘルツ波を使った非破壊解析機器は、これまで拡充してきた商品群を活かし、産業向けビジネスへの実績拡大を図る

# 2015年度業績予想

(億円)

※2015年度業績予想 為替前提:1米ドル=115円、1ユーロ=135円

	2014年度 実績	2015年度 上期予想	2015年度 下期予想	2015年度 通期予想	通期予想 前年度比
受注高	1,763	860	810	1,670	-5.3%
売上高	1,633	820	830	1,650	+1.0%
営業利益	146	72	78	150	+2.6%
営業利益率	9.0%	8.8%	9.4%	9.1%	+0.1pts
税引前当期純利益	189	72	78	150	-20.5%
当期純利益	129	58	62	120	-7.3%
当期純利益率	7.9%	7.1%	7.5%	7.3%	-0.6pts
受注残	450	490	470	470	+4.4%

**ADVANTEST.**

2015/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

20

## ○ まとめとして、2015年度の業績予想数字

- 受注高 1,670億円
- 売上高 1,650億円
- 営業利益 150億円
- 当期純利益 120億円
- コスト引き締めの取り組みを継続、前期並みの営業利益率を維持

# 成長に向けて

## 新しいビジネス領域への計測技術応用

製薬/ヘルスケア/バイオ/エネルギー/超高速通信

## システムレベルの計測・信頼性保証への展開

SSD/スマートデバイス/IoTデバイス/その他モジュール

## 微細加工/微細検査市場への展開

EB露光装置/EB計測装置/テラヘルツ分光・解析装置

## 半導体テスト事業のシェア強化 テストセル販売の強化

蓄積した計測ノウハウを未来の計測事業へ発展

**ADVANTEST.**

2015/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

21

### ○ これからの成長に向けて

- まずコア事業である半導体テスト事業では、プロセッサやメモリなど、デジタル向けの強みを保ちつつ、RF、MCU、PMIC、イメージセンサなどで顧客を増やし、シェアを伸ばす
- テストセル販売の強化を継続し、ハンドラとデバイス・インタフェースの売上を伸ばす
- 半導体の高性能化、小型化、低消費電力化実現のため、半導体の製造プロセス、材料、パッケージが進化し、製造難易度も高まる見込み。このトレンドに沿って、当社の電子ビーム技術やテラヘルツ波技術を使った製品のビジネス拡大を目指す
- 今注目を浴びている、「IoT」、「M2M」(機械と機械)、「V2V」(クルマとクルマ)では、通信用半導体、コントローラやセンサーデバイスが多量に使われる。特にセンサーデバイスのテスト需要拡大が見込まれるなか、システムレベルでのテストソリューションを提案したい
- さらに、当社が保有する計測技術を新しいビジネス領域へ幅広く応用したい。既にテラヘルツ波を使った非破壊解析装置を販売しているが、ほかにもエネルギーやバイオ関係、超高速通信等で、当社の高精度・高速な信号計測技術を活用できることがわかってきた
- 以上のような取り組みを進め、当社を成長させていきたい